



行政視察報告書

*期 日 平成 28 年 10 月 26 日(水)～28 日(金)

*調査地 岡山県津山市

農商工連携推進計画について

岡山県高梁市

観光戦略アクションプランについて

茨城県古河市議会

産業建設常任委員会

平成29年 1月18日報告

委員長 鶴見久美子

副委員長 稲葉貴大

委員 渡辺松男

委員 長浜音一

委員 赤坂育男



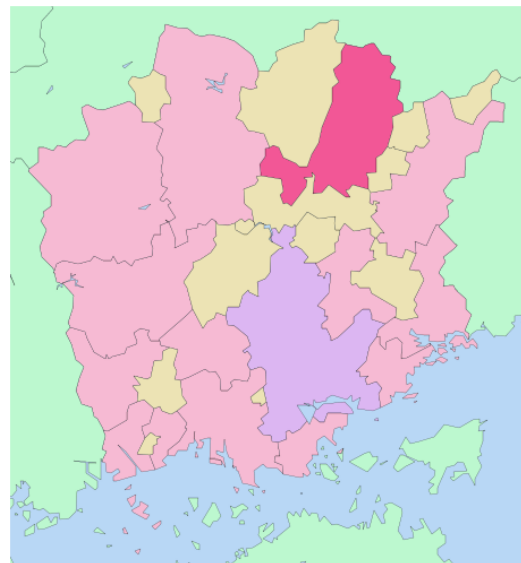
津山市

岡山県の北部に位置している。美作地方・岡山県北部の中心都市であり、県下第3の人口規模を誇る市である。江戸時代のころは津山藩の城下町として栄えていた。ちなみに藩庁は恐ろしいほど規模が大きかった津山城に置かれた。また出雲街道の宿場町としても栄えていた。1871年(明治4年)になると廃藩置県により津山県になり、その後岡山県に統合された。1889年(明治22年)に町村制の施行により津山町が発足した。1929年(昭和4年)に津山市になった。そして周辺の町村を合併していき現在に至る。

シンボルキャラクター・活波鶴丸・さくら姫、環境ヒーロー・津山太助となかまたち等のご当地キャラがいる。

ご当地グルメとして、津山ホルモンうどん、津山バーガー、津山ロール、津山餃子などがある。

- 人口：103,117人
(H28.10現在)
- 世帯数：44,915世帯
(H28.10.1現在)
- 面積：506.4 km²



【調査事項】

農商工連携推進計画について

① 10年間の長期計画となっているが長期で推進していく経緯について

地産地消推進計画に基づき、津山市第2時食育推進計画と津山市農商工連携計画の一体となった取り組みによる地産地消の推進を図っている。

異業種間での意見交換、情報共有を平素から行い、特に農業に軸足を置いた取り組みを目指すため10年間での計画実施期間を定めた。産地づくりから商品開発・流通までを一貫して津山市で行う連携体の構築を理念としている。

② 農商工と異なる業種間の交流の連携の方法、課題について

農業者、商工業者、教育機関、金融機関、行政で構成されるつやまFネットという組織を立ち上げている。2つの分科会に分かれており、年間3～4回実施し、連携を図りながら、目的の実行を目指している。

農業者側の課題については、販売業者は加工品を求めてくる場合があり、加工業者に加工を頼まなくては出荷できない。C品となる出荷できない果樹等は原材料費は安いですが、一度にたくさんの量が確保できないため、保存場所が必要になってくる。個人農家では人手不足などがあげられる。

販売業者側の課題については、商品の知名度が出るまでは売れ行きが上がらない。大手との取引にはリスクが大きい。都市部にも出荷したいが、賞味期限や送料の問題がある。マンネリ化になってしまうなどがある。

③ 事業主と消費者である市民との関わり方はどのように進めていくのかについて

消費者となる市民に関心を持ってもらうよう、学生による加工品のプレゼンテーション、パッケージ等のデザイン化を依頼し、採用されたものは地元スーパーマーケットに商品として売り出す取り組みをしている。また、国の補助金を利用し、学校給食へ地元農産物を取り入れたり、まつり等のイベントに出店、フェイスブック・ブログ等で情報を拡散しPRに努めている。



高梁市

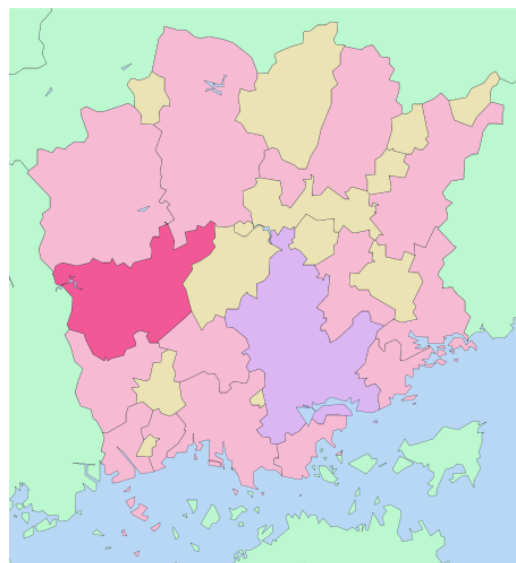
高梁市は、岡山県中西部に広がる吉備高原に位置しており、東は吉備中央町、西は広島県神石高原町、北は新見市、真庭市、南は総社市、井原市に隣接しています。市域は東西 35 km、南北 30 kmとやや東西方向に長く、面積は 547.01k m²で、県土の 7.7%を占め、岡山県内の市町村では 4 番目に広い面積を有している。

平成 16 年 10 月 1 日に、旧高梁市、旧有漢町、旧成羽町、旧川上町及び旧備中町の 1 市 4 町が新設合併し現在の高梁市が誕生した。

市の東部を県下三大河川の 1 つである高梁川が貫流し、高梁川、成羽川及び有漢川の流域の平地に市街地が広がり、その他は、急峻な傾斜部及び起伏が激しい高原部に集落が点在している。

瀬戸内海式気候とよばれる気候区分に含まれ、年間を通じて天気や湿度が安定している。また 1 年を通じて霧が多い地域でもある。

- 人口：32,064人
(H28.10.1 現在)
- 世帯数：14,746世帯
(H28.10.1 現在)
- 面積：547 km²



50km

【調査事項】

観光戦略アクションプランについて

①平成 21 年度から 3 カ年で「備中高梁元気プロジェクト」を推進した経緯と事業の結果からどのようなことが得られたかについて

平成 16 年の合併以降、一体的な施政が繰り広げられていないことがあり、国の専門家を呼び、飲食、ホテル、タクシー、バス業界などさまざまな職種が集まりプロジェクトを立ち上げた。地域、職種を越えたつながりができ、行政だけではできないことを打ち出すことができた。

②さらに「観光戦略アクションプラン」として推進していくことになった経緯と方針について

「備中高梁元気プロジェクト」で見えてきた課題を整理し、新たに「観光戦略アクションプラン」を立ち上げた。

4つの基本戦略

1. 個々の魅力づくりと受け入れ体制づくり
2. 地域間連携とネットワーク化
3. 交通環境整備と快適回遊の実現
4. 一元的な情報発信とプロモーション

③推進していくにあたり、どのような団体と協力しているのかについて

推進委員 30 名（市民）

まちづくり団体、商店会、観光協会、商工団体、JA、JR、バス、タクシー、宿泊施設、ツーリスト業界
市役所プロモーションメンバー 24 名

任期 2 年間 市長より委嘱を受ける

④ハード面に対しての取り組みについて

ストーリー性を持たせた「高梁ものがたり」観光モデルコース
ノスタルジックな町並みにあわせたボンネットバスによる観光周遊バスや路線バスの整備

【視察後記】

津山市は、津山市第2次食育推進計画と津山市農商工連携計画の一体となった取り組みにより、地産地消の推進と農商工とは異なる異業種間で構成される、つやま F ネットを立ち上げ連携を図っている。特に農業に軸足をおいた取り組みを目指すため、10年間という長期計画を定めた。生産・開発・流通を一貫して市が行う連携を理念としている。市民の関心を引くように、学生による加工品のプレゼンテーションや、パッケージ等のデザインも依頼して商品化して売り出す取り組みもしている。特産品の開発においては、農業者側、販売業者側それぞれの現状や課題もしっかり把握し、生産意欲・販売意欲の向上に努めている。津山市全体で取り組む産業振興の情熱と、技術を市の発展に生かしていきたいとの強い思いを感じた。

高梁市は、平成21年から3カ年計画で「備中高梁元気プロジェクト」を推進し、その後は課題等の見直しなどを行い「観光戦略アクションプラン」を立ち上げた。市民から推進委員として30名を委嘱し、市役所からもメンバーを導入するなど、官民一体となり4つの基本戦略のもと推進している。観光まちづくりを進めるうえで、地区別に座談会を開催しており、その地区ごとの課題などを解決していくことは、それぞれの地区の特徴を生かすうえでは重要なことだと感じた。今後は10年後の地域を見据え、まず5年先の実現に向けて目標を明確にして効果を上げていきたいと話されていた。

両市とも、異業種間で取り組み、市民を巻き込んで、行政がそこに関わっていく。そして情報発信や人材育成などにも取り組んできた結果なのではと感じた。



津山市議会議場



津山市 研修風景



高梁市議会議場



高梁市 研修風景